

○河川における環境基準について

河川名	測定地点名	環境基準 類型※1	水素イオン 濃度 (pH)	溶存酸素量 (DO)	生物化学的 酸素要求量 (BOD)	浮遊物質 (SS)	大腸菌数
唐の原川	浜田橋	C	6.5以上 8.5以下	5mg/l以上	5mg/l以下	50mg/l以下	—
多々良川	名島橋	C		7.5mg/l以上	2mg/l以下	25mg/l以下	300CFU /100ml以下
	雨水橋	A		5mg/l以上	5mg/l以下	50mg/l以下	—
須恵川	休也橋	C		6.0以上 8.5以下	2mg/l以上	8mg/l以下	100mg/l以下
宇美川	塔の本橋	C	3mg/l以下		25mg/l以下	1,000CFU /100ml以下	
	御笠川	D	5mg/l以上		5mg/l以下	50mg/l以下	—
那珂川	千島橋	D	3mg/l以下		25mg/l以下	1,000CFU /100ml以下	
	金島橋	D	5mg/l以上	5mg/l以下	50mg/l以下	—	
	板付橋	B	3mg/l以下	25mg/l以下	1,000CFU /100ml以下		
樋井川	那の津大橋	C	7.5mg/l以上	2mg/l以下	25mg/l以下	300CFU /100ml以下	
	住吉橋	B	5mg/l以上	3mg/l以下	1,000CFU /100ml以下		
	塩原橋	A	5mg/l以上	3mg/l以下	1,000CFU /100ml以下		
金屑川	飛石橋	C	6.5以上 8.5以下	5mg/l以上	5mg/l以下	50mg/l以下	—
室見川	室見橋	A		7.5mg/l以上	2mg/l以下	25mg/l以下	300CFU /100ml以下
名柄川	興徳寺橋	C		5mg/l以上	5mg/l以下	50mg/l以下	—
十郎川	菅岐橋	C		7.5mg/l以上	2mg/l以下	25mg/l以下	300CFU /100ml以下
七寺川	上鯉川橋	C	6.5以上 8.5以下	5mg/l以上	5mg/l以下	50mg/l以下	—
江の口川	玄洋橋	C		7.5mg/l以上	2mg/l以下	25mg/l以下	300CFU /100ml以下
瑞梅寺川	昭代橋	A		5mg/l以上	5mg/l以下	50mg/l以下	—
				7.5mg/l以上	2mg/l以下	25mg/l以下	300CFU /100ml以下

※1 水質汚濁に係る環境基準について（昭和46年12月28日環境庁告示第59号）第1の2の(2)により類型

○値の評価について

環境省通知によると、pH、DO及びSSについては、日間平均値にて評価するため、その結果を環境基準と比較することによって評価することができます。
しかしながら、BOD及び大腸菌数については、それぞれ1年間測定した全結果の75%値及び90%値で評価することとされているため、測定実施年度の値の評価については翌年度に公表します。

○環境基準項目について

水素イオン濃度（pH）とは、その水が「酸性」、「中性」、「アルカリ性」のうちのいずれかの性質を示すかを見分けるための指標です。

pHは川や海の水の性質として重要な要素であり、川や海などでは通常 pH=7 前後の中性に近い値を示します。

溶存酸素量（DO = Dissolved Oxygen）とは、大気中から水に溶け込んでいる酸素(O₂)の量のことです。

DOが減少すると、水中の好気性微生物の活動が鈍って腐敗臭がしたり、魚介類などの水棲生物が窒息死することもあることから、他の汚濁物質の指標とは異なり、数値が大きいほど良好な水質であると言えます。

生物化学的酸素要求量（BOD=Biochemical Oxygen Demand）とは、水中の有機物が好気性微生物により分解される過程で消費される水中の酸素量のことです。

BODは河川の有機物による汚れを知る上で重要な指標であり、値が小さいほど「きれいな水」であると言えます。

浮遊物質（SS=Suspended Solid）とは、水中に浮遊又は懸濁している直径2mm以下の物質の量のことです。

その主な成分は、プランクトンなどの生物の死骸や糞やその分解物などの有機物、粘土微粒子などの無機物であり、値が小さいほど「きれいな水」であると言えます。

大腸菌数とは、大腸菌を培地で培養し、発育したコロニー数を数えることで算出され、水のふん便汚染の指標として使われる数値です。

大腸菌数に用いる単位はCFU(コロニー形成単位(Colony Forming Unit))/100mlで、値が小さいほどヒトや動物からの排泄物による汚染が少ないと言えます。